

九州大学アジアウィーク2022関連企画

# 「口から覗いたミャンマー、そして今」

(日時)

11月11日 (金) 17:30~19:00

(場所)

九州大学I<sup>2</sup>CNERホールAB & Zoom [ハイブリッド]

講師：松本 敏秀氏 (歯科医師、歯学博士)

「アジアのこどものデンタルケア」代表

「福岡・ミャンマー友だちの会」代表世話人



(略歴)

九州大学歯学部卒、九州大学大学院を経て、同大小児歯科に勤務

1996年：小児歯科医院を福岡県糸島市に開院

2011年：いずれはと計画していたボランティア活動に専念するために閉院

ミャンマーやカンボジアなど東南アジアでのボランティア活動を開始

年間のべ半分はミャンマー滞在。ヤンゴンを拠点に各地を巡回訪問

現在：新型コロナ蔓延とミャンマー政変で国内待機



(参加申し込み)

11月10日 (木) までに

Googleフォームから登録してください

<https://forms.gle/dowf43bFc6MSNQ9SA>



問い合わせ：藤原敬大 (九州大学大学院農学研究院) fujiwara.takahiro.218@m.kyushu-u.ac.jp

## 九州大学アジアウィーク 資料

# 『口から覗いたミャンマー、そして今』

松本敏秀 歯科医師、歯学博士

「アジアのこどものデンタルケア」代表

「福岡・ミャンマー友だちの会」代表世話人

略歴) 九州大学歯学部卒、九州大学大学院を経て、同大小児歯科に勤務

1996年：小児歯科医院を福岡県糸島市に開院

2011年：いずれはと計画していたボランティア活動に専念するために閉院

ミャンマーやカンボジアなど東南アジアでのボランティア活動を開始

年間のべ半分はミャンマー滞在。ヤンゴンを拠点に各地を巡回訪問

現在：新型コロナ蔓延とミャンマー政変で国内待機。 Email : matsukoshi8@yahoo.co.jp

### (活動の内容)

ミャンマーの自然と国民性に魅せられ、かねてから計画していた歯科治療や予防歯科・保健衛生指導を、2011年5月より無償で行って来ました。対象者はおもに、医療に恵まれない孤児はじめ少数民族、内戦被災者、HIV感染者、AIDS患者や心身障がい者などです。年間50か所ほどの地域を、繰り返し巡回訪問していました。

現地の歯科医師とともに歯科治療も実施してきました。しかし多くが、電気や水などのインフラ未整備のため治療は困難で、う蝕、歯周病や経口感染症予防のための保健衛生指導が、活動の主体となって来ました。その際、『治療するには免許がいるが、病気予防は誰でもできる!』を合言葉に、現地の教師、NGO団体スタッフや地域のリーダーなどにも研修してもらい、ともに仲間として活動し、将来的には彼らの手で自立して継続できることを心掛けて来ました。

しかし、2020年3月の一時帰国後は、新型コロナ感染蔓延のため、そのまま日本に滞在することになりました。そこで現地に向け、感染症予防策(手洗い、歯みがき、うがい・鼻うがい、あいうべ体操など)を、フェイスブックやZOOMなどで発信していました。

### (ミャンマーの今)

2021年2月1日のミャンマー国軍の民主政権転覆で、ミャンマーの国情は一変しました。軍政に反対する国民は、現在もおお逮捕・監禁、拷問や性的暴行、殺害などの被害に遭っています。

とくに、私が訪問してきた少数民族居住地域への空爆などで、100万人以上の避難民が出ています。ロシアのウクライナ侵攻以降、国際社会でのミャンマー関連の報道が出なくなった陰で、軍の情報規制もあり、現地からの情報もめっきり少なくなりました。国軍による地方住民への攻撃は、以前にも増して、過激さを増してきているとのことですが、海外からの避難民への人道的支援も困難になりました。日本国内にも多くのミャンマー人が居住し、それぞれの立場で苦悩の日々を送っています。問題解決には、私たち日本人も含め、国際社会の関与が必要だと考えています。